

令和2年度第2回学校評議員会報告

- 1 日 時：令和3年2月18日（木）15：30～16：30
- 2 場 所：本校会議室
- 3 出席者：学校評議員3名、オブザーバー1名、本校職員5名（校長、副校長、事務長、総務主任、総務担当）
計9名
- 4 次 第：（1）開会 （2）校長挨拶 （3）学校概況説明 （4）質疑・意見交換 （5）閉会
- 5 内 容：

【校長挨拶】

日頃から本校の教育活動へのご理解とご協力に感謝申し上げます。今年度は新型コロナウイルス感染症に伴い、感染防止指導等の対策を講じ、学校活動を行ってきた。修学旅行は中止となったが、体育祭、文化祭は規模を縮小して実施することができた。部活動においても、1月には吹奏楽部・総合文化部が久慈地区高総文祭、バスケ部・バレー部が新人戦県大会に参加した。後期末考査も終わり、3年生の進路も心配されたが、ほぼ決定した。関東方面の進学・就職者はいない。次年度志願者数が推薦合格者2名、調整前志願者数が23名となっている。本校存続に向けてさらに広報活動等に努めていきたい。本日は、学校運営に対して様々なご意見をいただきたい。

【学校経営計画】資料により校長より説明

【学校概況説明】副校長より口頭説明

【質疑・意見交換】

A 氏：洋野町が合併して15年になる。地方創生についてこれからは大事である。洋野町を支える人材の育成をお願いしたい。

B 氏：合同の避難訓練を計画していたが今年度は実施できなかったもので、次回は是非実施したい。
北いわてコミュニティ事業については、大野地区に住む人が幸せになれるような基盤づくり、起爆剤としての事業であるが、地元の人だけではなかなか進められない。高校生の参加で盛り上がる。大野地区の福祉を絡めた地域と教育と商工業といった枠で事業を進めていきたい。

C 氏：大野高校という学校をこの会議で理解できた。プールの監視員をしているが、バスケ部の生徒たちがアルバイトにきてくれていたこともあり、バスケ部の活躍を期待していたが、コロナの影響で残念だ。

副校長：自己肯定感・有用感を醸成させるためにはどのような方法があるか。

C 氏：恩師に言われた言葉で「学生である今、頭を使わなければ一生使わなくなってしまう。今頑張れ」というのが印象的だ。文字をきれいに書く意識を持たせるだけでも違う。

B 氏：小学校でプログラミング学習が行われ、大学入試では共通テストの導入、さらにはコロナの影響もあり、様々な面で「はざまの世代」とも言えるこれからの教育はSDGs（持続可能な目標）と結びつける学習が必要となってくる。

副校長：1年生の学習時間について、目標達成はしたが、もう少しだという印象である。

どのような方策が必要か。

A 氏：この家庭学習時間で授業について行けているのか。授業する先生からすれば大変では。

C 氏：中学校からの積み重ねが習慣になっているのではないか。高校生になり、学習に時間をかけられる余裕がないのではないか。部活動をしている子は特にそうなのでは。

B 氏：家庭環境に難がある子いないか。親の失業やヤングケアラーとなっている子が今問題になっている。そのような視点も必要だ。

副校長：込み入った家庭事情はなかなか聞き出せないこともある。信頼関係の構築が大事である。

副校長：いじめ防止についてのアンケートは、生徒の肯定的な回答は100%だが、保護者の回答は異なった。この違いはどのように推察するか。何か耳に入っていることはないか。

B 氏：保護者の精神的な面が影響している可能性もあるのではないか。本来そうではないこともマイナスイメージで捉えてしまう方もいるのではないか。子どもとの差はそこに出ているのではないか。